

第三級海上特殊無線技士試験問題

無線工学

(注) 次の各問題の記述について、正誤のいずれかを選び、答案用紙の答欄に正しく記入(マーク)すること。

1. 電波の伝わる速度は、1 秒間に 30 万キロメートルである。
2. 送信機は、発振、増幅及び復調を行う部分から構成されている。
3. 無線電話の単信方式では、一般に一基のアンテナを送信と受信に共用している。
4. 電離層波と地表波では、地表波の方が遠方まで伝わる。
5. 無線電話送受信装置において、プレストークボタンを押すと自動的に受信状態になる。
6. スリーブアンテナは、全方向性(無指向性)アンテナである。
7. 蓄電池(バッテリー)の容量は、使用する電流の大きさと電圧によって決められる。
8. SSB方式の無線電話装置には、クラリファイヤのつまみがある。
9. チャンネルつまみは、送受信周波数を希望する周波数に合わせるために使用される。
10. 船舶に設置されたパルス波レーダーは、マイクロ波帯を使用するので混信しない。